東大阪

発行所
株式会社東大阪新聞社
第6908号
〒577-0802
東大阪市小阪本町 1-1-7
エフエスビル２Ｆ
TEL 06-6720-4601
FAX 06-6720-4603

八尾柏原支社
〒581-0013
八尾市山本町南 6-2-29
TEL 072-926-5134
FAX 072-921-6893

東大阪・八尾柏原の地域紙

クリアファイル・クリアブックオフセット印刷のことなら
KISU
有限会社 木須商店
本社工場 〒581-0035 大阪府八尾市西弓削3丁目70番地
TEL 072-949-1147 FAX 072-949-1047
http://www.kisu-sp.com/ E-mail info@kisu-sp.com

ジャパン・フェスティバル開催

11月25・26日

ニュージーランド ウエリントンで

2年に一度開かれるニュージーランドの首都ウエリントンのジャンパン・フェスティバル。今年が開催年に当たり、11月25日と26日に開催された。

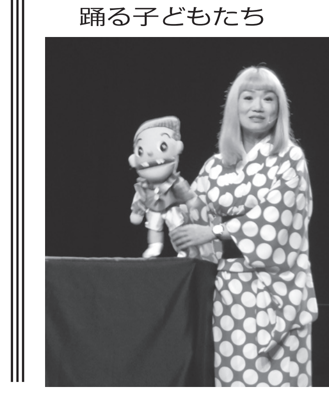
初日はニュージーランド唯一の国立博物館「テ・パパ・トンガレワ」内のホール、2日目はTSBアリーナでそれぞれ開かれ、日本文化に親しむニュージーランド人、現地在住の邦人らが集った。在ニュージーランド日本大使館、アジア・ニュージーランド基金、ウエリントン市共催のイベント。

「恋するフォーチュンクッキー」に合わせて踊る子どもたち

ウエリントンには洒落たカフェがあちこちにあり、米国CNNが行った「世界のコーヒーの町」でトップ8に選ばれたこともある。作家キャサリン・マンスフィールドの生家があることでも有名だ。また、映画「ロード・オブ・ザ・リング」や「ホビット」シリーズの特殊効果や小道具製作を手がけるウェタ社が運営する複合施設「ウェタ・ケーブ」を訪れる観光客も多い。

八尾のボーカリスト 椿彩綺さん熱唱

11月14日未明ニュージーランド南島に起きたマグニチュード7・8の地震でジャパン・フェスティバルの開催が心配されたが、北島にあるウエリントンの被害は小さく、予定通りに開かれた。


腹話術をする Showko さん

このジャパン・フェスティバルに八尾在住のボーカリスト椿彩綺（あき）さんが（45）が招待され、日本のポップスやアニメソングを中心に披露した。椿彩綺さんは11月23日ニュージーランドの人気テレビ番組に和装で出演しジャパン・フェスティバルのPRを行った。これによりニュージーランド中で知れわたり、この番組を見て会場に足を運んだ人も多かった。

「残酷な天使のテーゼ」を熱唱する椿彩綺さん

椿彩綺さんの舞台はきゃりーぱみゅぱみゅの「にんじゃりばんばん」でスタートし、会場は大いに沸いた。テレビアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」のオープニング曲「残酷な天使のテーゼ」では、絶叫マシーンさながらの歓声が会場に響き渡った。

アンコールに応えてAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊りながら歌った。エキサイトした子どもたちが舞台に上がり、歌声に合わせて踊った。

椿彩綺さんのほかに、メルボルンから落語家で腹話術師のShowko（笑福亭笑子）さんが、東京からけん玉ユニットZoomadanke（ズーマダンケ）が招かれ、鮮やかな演技を披露した。

けん玉パフォーマンスをする Zoomadanke の２人

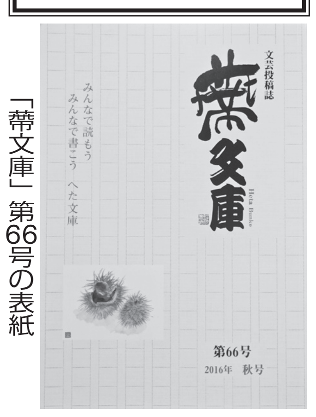
そのほか、舞台では剣道、日本舞踊、和太鼓などが披露された。会場には多くのブースが設けられ、華道、茶道、書道、折り紙、囲碁、将棋から指圧まで多岐にわたって日本文化が紹介されていた。寿司や餅つきのコーナーもあり、日本の食文化にも触れることができた。

人気の寿司コーナー

会場入り口では本紙東大阪新聞を配るサービスも行われた。なかには一つ一つの記事を熱心に読む参加者もいた。

テレビ出演する椿彩綺さん

「蔕文庫」終刊


「蔕文庫」第66号の表紙

八尾在住の松井勇さん（83）が発行する文芸投稿誌「蔕（へた）文庫」が、来年2月1日発行の第67号で終刊となる。16年間続いた本誌がなくなるのを惜しむ人が多い。第68号掲載の終刊予告を転載する。蔕文庫への問い合わせは蔕文庫舎（☎072―994―7805）へ。

季刊・文芸投稿誌「蔕文庫」は、定期発行を続けて16年、本年11月の発行をもって66号となります。

２０００年６月に創刊して以来、こんなに長期にわたって発行し続けられるとは、夢にも思っておりませんでした。

これはひとえに、創刊の趣旨にご賛同くださった書き手、読み手、支援者など、皆様のご協力があればこその快挙だと思います。感謝の言葉をいくら重ねても、意を尽くすことができません。

この間を振り返ってみますと、２００８年4月、第32号の編集半ばで右眼の網膜の、もっとも視力鋭敏な黄斑に円孔が現れ、手術を受け眼球の背後に医療用のガスを注入され、静止状態を保つため俯いたまま顔を絶対に動かさない生活が1週間以上も続きました。その結果、この目は視力障害がひどくなり、第50号を越えるあたりから左眼にも負担がかかり、視力低下が目立つようになりました。

しかし、皆さまからの声援を受け、もう1号もう1号と積み重ねるうち、歳と共に校正ミスもあって編集作業が厳しくなり、能力の限界を感じるようになりました。

この間、編集委員の皆さまとも存続につき何度か話し合いを持ち、知恵を絞ってまいりましたが、万策尽き、ここは潔く終刊の決意を固めることにしました。

２００４年６月には第7回日本自費出版文化賞を受賞でき、作家の中山千夏さんから「文芸A部門賞」の推薦のことばとして、「このような総合誌のかたちをとったものは珍しいのではないか」との評価を受け、これには応え切れたと思っています。

来春67号（2月1日発行）をもって「終刊」とします。

（主幹　松井勇）

女性の社会進出や子育て支援を積極的に取り組む

商工中金　東大阪支店

商工中金は、女性の社会進出を応援するため、女性の起業ならびに女性の就労、少子化対策などに貢献している中小企業等を積極的にサポートしている。

商工中金東大阪支店（加賀美孝支店長）は、株式会社サンクレスト（東大阪市南上小阪12―42、植田実社長）に対し、新製品のスマートフォンに対応したアクセサリーを製造するために必要な資金5千万円を融資。商工中金と大阪府中小企業団体中央会が行う「中央会推薦貸付制度」を活用している。同制度は、組合および組合員の事業を効果的に支援するため、中央会の推薦により金利を優遇するもの。

株式会社サンクレストの事業拡大を金融面からサポート

株式会社サンクレストは、スマートフォンの保護フィルム、ケース等の携帯電話アクセサリーの企画製造を行っている。同社商品のユーザーは主に女性であることから、女性を積極採用し、女性の感性を活かした商品開発に力を入れている。また、社内にキッズルームを設け、子育て世代の社員が安心して仕事と育児を両立できる環境を整備している。

今回、同社は、新製品のスマートフォンに対応したアクセサリーの製造販売を強化するため、運転資金の調達を計画していた。商工中金は、女性の積極活用を通じて事業拡大に取り組む同社を高く評価し、大阪府中小企業団体中央会と連携して、必要資金を融資した。

商工中金は、公的金融機関で唯一のフルバンキング機能を持つ金融機関として、女性の就労機会の増大や子育てしやすい社内環境づくりに貢献している中小企業を積極的に支援し、地域経済の活性化に発展に貢献している。

商工中金東大阪支店（東大阪市長田中2―1―32）への問い合わせは、☎06―6746―1221へ。

広域

クリスマス・オルガンコンサート

スウェーデンのオルガニスト グンナー・イーデンスタムさん ウクライナのソプラノ歌手 オクサーナ・ステパニュックさん 共演

～ いずみホールで ～

エレガントなオクサーナ・ステパニュックさん

クリスマス・オルガンコンサートが12月23日にいずみホール（大阪市中央区城見1、JR大阪城公園駅下車すぐ）で開かれる。12時と16時の2回公演。

スウェーデンのオルガニスト、グンナー・イーデンスタムさんとウクライナのソプラノ歌手、オクサーナ・ステパニュックさんが夢の共演をする。世界のクリスマス・キャロル、バッハの「トッカータとフーガ　ニ短調」、シューベルトの「アヴェ・マリア」、ラヴェルの「ボレロ」などクラシックの名曲をオルガン版にアレンジ。パイプオルガンの醍醐味を味わえる。

なお、オクサーナさんはウクライナの民族楽器バンドゥーラを奏でる名手でもある。

間違いなく今年のクリスマス一押しのコンサートである。見逃した人は後悔するだろう。

全席指定5、000円（税込み）。問い合わせは主催のリバティ・コンサーツ（☎06―7732―8771）へ。

私の鉄道経営 体験を語る

ユニークな発想と行動力で 企業再生

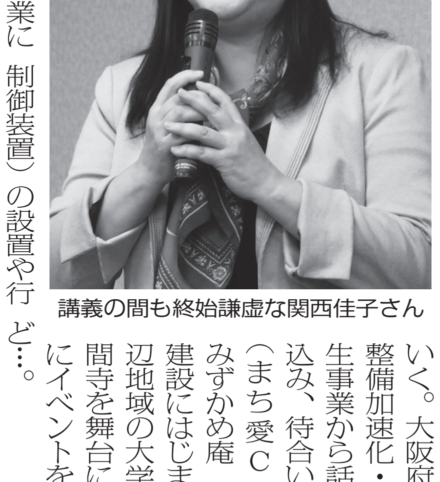
水間鉄道㈱会長 関西 佳子さん

11月29日、東大阪商工会議所にて東大阪女性経営研究会（HOWS）による第165回例会・公開講演会が開かれた。

講師には水間鉄道株式会社取締役会長の関西佳子さん（53）を招き、およそ50人の経営者の前で90分にわたり弁を振るった。

水間鉄道とは貝塚市にあるローカル鉄道で、市街と水間寺の間、10駅5・5kmを結ぶ2両1編成の愛らしい鉄道である。同鉄道は近隣の住民が水間寺を参拝するために、大正14年に運行を開始した。民間人が出資し合いつくられたという意味では日本でも珍しい形態である。

歴史があり、地域住民に愛されてきた水間鉄道だが、その運営は順風満帆なものではなかった。特に関西さんが入社した平成17年はマイナスからのスタートであった。


講義の間も終始謙虚な関西佳子さん

同社は不動産事業による負債により倒産した直後だった。しかし、それまでの鉄道事業によって促進された地域の開発が功績として挙げられ、同社は会社更生法が適用される。新しく会社の再生を計る段階となったとき、関西さんはシステムエンジニアとして入社した。今までのアナログ設備の管理から一変、ICカードシステムを導入する。前職の野村證券で培ったプログラミングが役立った。人事だけでなく、事業形態の血の入れ替えが必要だと確信した関西さんは上層部と共に計画案を策定し、それまでなかった安全面でのATS（自動列車制御装置）の設置や行政と協力しバス事業である路線バスの合理化を図った。

「鉄道事業は鉄道のシステムを向上させるだけでなく沿線開発にも目を向けなければいけません」と関西さんは言う。

沿線の住宅地、病院、道路などのインフラ整備を整えることで集客に繋がる。そして、それが沿線の文化を豊かなものにする。言わば、街全体を見通しながら街の土壌づくりを促す役目として機能しなければならない。

その動きかけと計画案が順調に進んだことと、管財人のバックアップもあって、1年後の平成18年の6月に会社更生手続が集結した。

平成20年、関西さんは同社の代表取締役社長に就任する。

そこからはレールの枕木をメッセージプレート付きで販売する枕木オーナー制度や私鉄6社と連携した企画「大阪南北ウォーク」など、ユニークな企画を立て続けに行う。

行動することで次々と新しい縁が生まれていく。大阪府の森林整備加速化・林業再生事業から話が舞い込み、待合いカフェ（まち愛Cafe　みずかめ庵　和）の建設にはじまり、周辺地域の大学生が水間寺を舞台に定期的にイベントを催すなど…。

それらの成功にも「周りの人に助けられている」と関西さんは謙虚な姿勢を一貫する。

「今でも同業他社さんを参考にしてヒントをもらいます。時によれば力を借りることもしばしばです。自分たちにできることは何かを考え、行動する。そして継続する。自分たちにできないことは諦めるのではなく、力をお借りすることも大切です」

自分たちにできることを追求し、周りを巻き込む力こそ今の今の時代に求められているものではないだろうか。

（嶋津亮太）

晴耕雨読

やまぬ過重労働

1日8時間労働と定められて約100年。1日8時間・週48時間は1919年に創設されたILO（国際労働機関）の労働基準である。電通の新人女性社員の過労自殺は昨年のクリスマスの日だ。何とも痛ましいが、氷山の一角である。

過労死ラインの月80時間残業を超えた社員がいる企業は22・7%という厚生労働省の調査がある。長時間労働は「企業の社会的責任（CSR）」と捉えたい。

1980年代後半、欧米諸国から「働き過ぎ」と批判された政府は1992年に「時短促進法」（時限立法）で、年間労働1800時間と定めた。現在の1日8時間・週40時間は1994年の労基法改正による。その後、長期不況の中「サービス残業」や「KAROSHI」が英語の辞書に入るなど社会問題化したのが2000年代初めだ。近年、またもや違法な時間外労働をさせる「ブラック企業」が増殖。

そのような中で、味の素は17年度に労働時間を7時間15分とし、20年度までに1日の所定時間を7時間とする目標を掲げた。また、日本電産の永守重信会長は「2020年までに残業時間ゼロを目指す」とし、「トップ主導で一気にやる」ことが必要だと11月の日経フォーラム「世界経営者会議」（日本経済新聞社主催）で述べた。先進的で画期的な対応だ。

時間は蓄えることができない世界共通の物差しであり、経営資産である。経営者の決断により「ホワイト企業」になる。昨年、取材した伝統的製造業の中小企業は「残業ゼロ」を掲げ社員募集したところ若年者の応募が急増し、定着しているという。可処分所得と同じように可処分時間を増やすことを意識したい。2020年までに「時もち」人間を増やしたいものだ。

ウエス販売
≪商品紹介≫
～色メリヤスウエス～　（1ｋｇ￥350）
～混合ウエス～　（1Kg￥150）
～タオルウエス～　（1ｋｇ￥400）
～タオル雑巾～　（1Ｋｇ￥600）
☆不用になった中古衣料やタオルから、ウエスに適した原料だけを選別加工し商品として仕上げました。障がいを持つ利用者が手作業で丁寧に裁断し、梱包をしています。地球に優しく、皆様に愛される商品を目指しています。
社会福祉法人ヤンググリーン
障害福祉さぽーとライフグリーン
〒578－0905
東大阪市川田４－４－８
ＴＥＬ：072－963－4838
ＦＡＸ：072－963－4855

根川医院
診療科　内科・小児科
住所　〒577―0807
東大阪市菱屋西6―2―28
千日前通り（産業道路沿い）
結婚式場ベルクラシック東南すぐ
診察時間　月～土　午前9時～午前12時
月・火・水・金　午後6時～8時
休診日　祝・日・木夜・土夜
TEL　06―6781―1253
FAX　06―6781―8406

本は著者の分身
記憶は一代、記録は末代
自分史・社史
「著者と編集者が二人三脚で本作り」をモットーに親身になって本作りをします。
お気軽にお電話下さい。
株式会社ドニエプル出版
TEL072-926-5134

河内国一之宮
枚岡神社
枚岡神社注連縄掛（しめかけ）神事
通称 お笑い神事
（東大阪市無形民俗文化財）
福来たる
今年は１２月２３日（天皇誕生日）

一般社団法人 企業にモテる仕事人育成協会
新規開講記念講座
「貴女は企業にモテていますか ?!」
日時：2017年1月21日（土）
①13：00～14：30
②16：00～17：30
場所：大阪市北区中津1－2－18
ミノヤビル5階
ファジー・マネジメント創研㈱
地下鉄中津駅下車⑤番出口すぐ
受講料：2,000円
講座
「企業にモテる仕事人育成」の意味と狙い
「何をどうすれば会社の仕事は楽になるか」
「貴女は会社でモテていますか」
「モテル仕事人協会のカリキュラム」
講師　笠本義嗣代表理事 他
お問い合わせ・お申し込み　TEL 06-6136-8027　FAX 06-6371-3315
E-mail : moterushigotonin@moterushigotonin.jp

連載

小説　感触

―⑪―

嶋津　亮太（八尾市在住の小説家）

暗くて見えない。ぬるぬるした質感が手に残っている。汗と垢を練り込んだ強烈な匂いの奥から、じめっとした生臭いものを感じる。手が震えるほど気は昂っている。しかし冷静にこの景色を焼き付けておきたいという意識が強く主張していた。一連の所行の中で生まれた感触のその一つ一つを慈しむように記憶させる。

動かなくなった骸を前にぼんやりと立ち尽くしていた。夜風の爽やかな波が頬を打ち、目が覚めるほどの清々しさを覚え、我に返った。風の吹く丘で星の数をかぞえていたような心地であった。頭の中が明瞭である。

まだ粘り気の残る手を川でゆすいだ。ひんやりとした水が手のひらを包み、下流へと消えていく。せせらぎの音が久しかった。丹念に手を洗ったつもりでいたが、月の灯りにかざしてみるとまだ汚れが残っていた。滲んだインクのようにそれは不気味な執拗さを持っていた。擦っても擦っても取れない。ちゃぷちゃぷと水の弾む軽やかな音が次第に激しくなる。その騒がしさから焦燥感が押し寄せた。早くこの場を離れなければならない。手の汚れは完全には消えなかったが、立ち上がり、そのまま駆け出した。手を振って水滴を切りながら駆け足で元来た道を折り返した。明りの差し込まない高架下だ。発見されるのはまだ先になるだろう。できるだけ暗がりを選んだ。不審に思われない速度で。それは走るよりもいくらか遅く、歩くよりもいくらか速い。

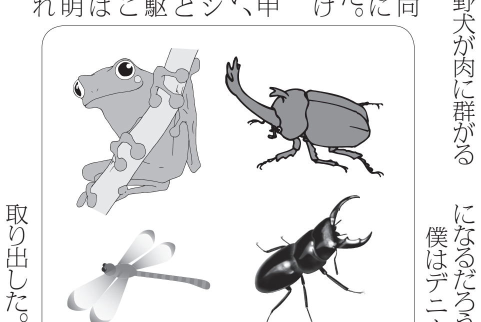
運のいいことに誰ともすれ違わなかった。堤防の階段を上りながらシャツの匂いを嗅いだ。そこにははっきりと汗の匂いに混じった血の匂いがあった。

自分は人を殺したのだ。初めて会ったばかりの、名前も分からぬ男を、殺したのだ。

不思議と捕まる気はしなかった。遺体はしばらくすれば発見されるであろう。野犬が肉に群がるかもしれない。

呼吸を落ち着けながら駅へ向かって歩いた。存在を消すようにできるだけ静かな通りを選んだ。この街に僕という存在の跡がなければそれが何よりだ。

しばらく歩いた所で前方から甲高い声が聴こえた。短く、細い、鳥が首を絞められたような声。シラサギが喧嘩でもしているのかと思った。反射的に声のする方へ駆け出した。四つ角を曲がったところで人影が視界に入った。それは互いに重なり合い、まさしく松明の向こうに映える影のように揺れた。



男と女に違いなかった。男は深い青のダウンジャケットに身を包み、女はベージュのトレンチコートを着ている。はじめ2人はふざけ合っているように見えた。肩を組んで戯れているかのように。しかしそうではないのだと気付いたのは、男が女の頭を殴りつけたからだった。

「きゃっ」

鈍い音と共に女の声が漏れた。

咄嗟に足を踏み出した。男は女の肩を持つようにして背を向けている。僕の存在に気付いていない。男がもう一度女の上へ拳を振り上げたとき、僕はその腕を掴み、引き寄せた。

振り返った男は驚いた表情をしていた。レストランで注文していない料理が届いた時のような、極めて純朴な顔であった。僕はそこへ向けて拳を繰り出した。

べちっ、と肌の下の骨を打つ軽い音が響いた。浮足立っているのか、腰が入っていないのか、相手に痛手を負わせた感覚はない。しかし、その衝撃により男は女の肩を離した。

男は振り返り、不思議そうに僕のことを見つめていた。僕が男に近づくと、思い出したかのように慌てて走り去って行った。

振り返ると女がその場にへたり込んで泣いていた。

「大丈夫ですか?」

そう言ってから、随分退屈な台詞を言うものだと自分でも驚いた。女は僕の問いに答えることもなくただ静かに泣いていた。次にかける言葉を胸の内でいろいろと考えてみたけれど、思うようなものが見つからず、結局当たり障りのないものに帰結していく。場を繋ぐぐという意味合いだけで、また「大丈夫ですか?」と同じように聞いた。

光度の薄い電灯がちかちかとコンクリートを寂しく照らす。暗い通りである。人通りもない。すぐ隣では老朽化した水路に小川が流れている。辺りは静かで女のむせび泣く声と水路を流れる川の音が際立って耳に届く。じめっとした不快な匂い。暗くてよく見えないが川の濁りは容易に想像できた。

「警察を呼びましょうか?」と尋ねると、そこではじめて僕の存在に気付いたように女は泣き止んだ。

なぜその言葉が出てきたのかは分からない。自分でも「警察を呼ぶ」ことがどういう意味であるのか分からないはずはなかった。自分にとってその言葉は、ただ目の前にあった便利なものに過ぎなかった。

「すみません」

女は謝った。急に今までのことが全て恥ずべきものであるかのように身を正した。若干乱れてはいたものの、その女の黒い髪は月灯りに濡れて美しかった。いや、乱れていたから美しかったのかもしれない。

「さっきの男は知り合いですか?」

「いえ…」

「じゃあ、襲われたんですか?」

「は…多分」

「多分?」

「えぇ、きっとそうだと思います。急なことで…突然後ろから羽交い絞めにされて…」

殴られた頭をさすりながら思い出すように女は答えた。唇は切れて赤い血が滲み、頬には涙の乾いた跡が残っていた。

僕は女の話を静かに聞いていた。どうやら男は通り魔のようだった。家に帰る途中、何の前触れもなく後ろから襲われたのだと言う。

「警察を呼びましょう」

「はぁ」

女は力なく答えた。どうやら僕が連絡するのを待っている様子である。それも当然のことであった。女はつい今しがた通り魔に暴力を受けたところなのである。間に入って僕が助けたわけであるから、警察へ連絡するのも必然的に僕ということになるだろう。

僕はデニムのポケットからスマートフォンを取り出した。取り出したところで後悔した。「携帯電話を持っていない」と言い訳することができなくなってしまった。仕方なくインターネットを広げて当てもなくスクロールする。暗闇に青白く光る液晶画面が眩しかった。横目で女を見ると頭をさすりながらバッグの中をまさぐっていた。人の携帯電話を見て自分のものを見たくなったのだろう。随分と退屈な発想の女である。そのことに少し苛立ちを覚えた。

案の定、女はスマートフォンを取り出した。手のひらの2倍近くある大きさのものだ。機能以前にそのサイズ感がより女を間抜けに映した。

「すみません、警察へは自分で連絡をしてもらっていいですか?」

咄嗟に僕はこう言っていた。

「え?」

女は驚いていた。それもそのはずである。助けてくれた人からそんなことを言われるなどとは思ってもみなかったに違いない。

「じゃぁ」

そう言って僕は駆け出した。「どうして?」と聞き返される前にその場を脱したかった。尋ねられれば答える必要が生まれる。そこに責任はないが、当たり前のことに答えないことで新しく疑問が生まれるのを阻止したかった。

呼吸を整えて、改めて思考を整理することができるようになった時には僕は電車に揺られていた。そして様々な考えが追いかけるように浮かんできた。

どうして僕はあの女を助けたのだろう。その前に見知らぬ人間を殺めたにもかかわらず、どうして僕はあの女を。そのことが理解できなかった。気付いた時には女を襲っている男の腕を取っていた。そのようなことをしても自分にはリスクしか残らないことは、考えずとも分かることだ。

僕は異常なのだろうか、正常なのだろうか。自分の行動が理解できなかった。

何よりの後悔は女との別れ際である。あんな不審な逃げ方はないだろう。「先に用事があって急いでいるから」その一言をどうして言えなかったのか。それだけ言うことができれば女もどうにか納得したかもしれない。全身から油のようなぬめりのある汗が滲み出た。

シャツの匂いを嗅いでみると、根強く血の匂いが残っていた。

次号（1月15日付）に続く

感触

美し国関西
設立３周年記念大会トークショー

「先人たちの熱き願いをわが胸に」
「日本の自立に向かっていく」
「これからの日本はどうなるのか」
「『和』の発信、東の風の時代」

一般社団法人美し国は平成28年11月18日夜、ホテルグリーンプラザ大阪アネックス館（大阪市北区中崎西）において、「美し国関西」設立3周年を記念して特別企画トークショーを開いた。「先人たちの熱き願いをわが胸に」をテーマに、先人たちを思い起こし、感謝を捧げ、現代日本を見つめなおし、輝く日本の未来を次世代につなぐため我々は何をすべきかをリレー形式で語った。

会場では熱心にメモを取る若い人も多く女性も目立った。要旨は次の通り。

池田整治氏

●江戸システムの再興

池田整治氏（美し国副代表・作家・元自衛隊陸将補）

カネとモノの西洋的価値観は滅んだ。人類の第3の道が日本主義である。ゆたかな楽園都市は江戸にあった。文献は明治維新、関東大震災、GHQなどにより失われたが、日本の先人が残したものとして「明治神宮の森」がある。森になるには150年かかると言われたが100年で再生した。永遠に残る森であり美し国の原点である。19世紀のパリは18世紀の江戸を真似てつくられた。いま、江戸時代のシステムの再興をしようとしているが、政治家として再現してくれるのは山田宏さんである。

山田宏氏

●「和」の会議を世界に提案

山田宏氏（参議院議員・元東京都杉並区長）

特攻隊員の遺書を英霊の言葉としてよく話したが、過去を批判するだけでは日本はよくならない。トランプ米国次期大統領について日本の大新聞の社説は「大衆迎合主義」「自国優先」と同じようなタイトルを付けたが、メディアは真実を伝えていないので信じてはいけない。

2017年は大変な年だ。中国の全人代大会、香港の行政官選挙、韓国の大混乱、北朝鮮の崩壊危機、仏大統領選、独首相選挙などと、権力の転換期となる。尖閣諸島には中国の1個師団が上陸してくるだろう。米国は無人島だから守らない。守るためには尖閣固有の絶滅危惧種であるモグラ等の国際研究所を建設することであり、予算を要求している。

来年は戦後70年の昼寝から目を覚ます「目覚まし時計」「平成のペリー」となる。憲法9条に自分の国は自分で守る、当たり前の国になる、自衛隊はなぜ存在するのかを明記するべきだ。2019年の参院選で負けると永遠に憲法改正はできない。

自然と人間を「和の戦略」として「和」の会議を京都で開催したい。世界に提案できるのは「美し国」日本だけである。トランプ氏の大統領就任はとてもいいタイミングだ。明治政府の寺島外務卿は天平の時代から我が国と主張した沖縄とともに一体となって日本の自立に向かっていきたい。

野口健氏

●死者に冷たい国は亡びる

野口健氏（アルピニスト・美し国副代表）

山に登りごみを拾って17年。山以外の活動では、戦没者の遺骨収集や熊本震災のテント村支援を行っている。なぜか、自分が正しいと思っているからだ。自分の正義感に酔うとおかしくなる。すべての人に評価してもらいたいと思うとできない。イデオロギーなどなく自然な思いで始めたのである。

インパール作戦に参謀として参加していた私の祖父は6人の孫のうち私だけに戦争の話をした。山を下りるとき祖父が話した「これからの日本はどうなるのか」が頭をよぎることがある。

人びとは何を思って死んだのか。いま、過去を振り返りたいと沖縄で遺骨収集している。

ネットで応募してきた大学生の3分の2は女性で「歴女系」ではなく普通の女子だ。糸満市では民間人の遺骨が相当出てくる。トラブルのときには女子学生が間に入ってくれるので助かる。死者に冷たい国はいずれ滅ぶと思う。

熱気に包まれる会場

熊本での活動は、ネパールの地震で行き来していた関係から「恩返ししたい」と言ってきた。日本人が大事にしていた「恩返し」という言葉がヒマラヤから届き「やるしかない」と熊本へ。避難所にはプライバシーがなく、精神状態は悪いので避難テントは有益だ。国連が定める1人当たり3・6㎡の避難テントについては全力挙げて取り組んでいく。

菅家一比古氏

●「日本蘇り」運動を進めたい

菅家一比古氏（一般社団法人美し国代表・教育創造研究所主幹）

千玄室先生は親友が特攻機出撃で戦死したとき、自らを責めて土下座して号泣した。英霊を思いながら、引きずりながら生きてきた先生は大徳寺に入り「この命をすべてお茶に捧げ、世界の平和に貢献していく」と誓った。

あの大戦は何だったのか。なんと言われようとおかしい。それだけでは何も生まれない。

いま、日本はとんでもない状態になっている。ベランダから突き落とし、点滴に毒を入れる、親殺し子殺しと、どうして命を粗末にするのか。

昔は命を大切にしてきた。命の重みを知ることである。

先人たちのバトンを受け取っていかなければならない。バトンを受け取らないで走っているから失格だ。20世紀は「西の風」の冷たい風が吹き荒れ、クーデターやテロが頻発。

これから「東の風」を西へ吹かせよう。「東風吹かばにほひおこせよ梅の花／あるじなしとて春な忘れそ」の「こち」は東の風、21世紀は山田先生の言う通り「和」の発信、東の風の時代だ。

御心の地、美し国「日本蘇り」運動を進めていきたい。

（石河亮平）

今、岩戸が開かれる…

枚岡神社で本邦初の神事を斎行

神話の中でも特に有名な故事来歴だが、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が天の岩戸に隠れたとき、枚岡神社に祀られている天児屋根命（あめのこやねのみこと）が岩戸の前で祝詞（のりと）を奏上し、神がかりの状態で踊り天照大御神の気を引き、芸能の祖神（おやがみ）となった。

枚岡神社で巫女研修を終了した研修者は「姫の会」と呼称され総数5百人を超える。このうちの43人と、雅楽振興会「はせくらみゆき」グループ40人超（巫女研修者）が本邦初斎行の「天の岩戸開き神事」に出演する。新しい神事は12月23日（天皇誕生日）の夕刻午後5時より斎行される。総勢80人超の巫女が石段のステージに登り神話を現世に再現、ライトアップの効果を含めて、幻想的な世界を中東弘宮司がプロデュースする。

「今こそ心の岩戸が開かれる」。荘厳な神事を期待したい。

天の岩戸の前にはせ参じた八百万（やおよろず）の神々が、天照大御神を引き出すために岩戸の前で笑い続けた故事が「お笑い神事」の起源だ。23日（天皇誕生日）の朝8時過ぎから新年の注連縄を作成し、「注連縄掛（しめかけ）神事」、引き続いて10時から「お笑い神事」を斎行する。中東宮司の発声により氏子・参詣者が揃って、「アッハッハー」と20分間笑い続ける。来たる年の福を願い、世間の憂さを吹き飛ばす、楽しい元気の出る神事だ。

「お笑い神事」神賑実行委員会は総勢50人超のボランティアで構成されている。今年度は近畿大学・総合社会学部の4回生・円山洋輔さんが参加している。「枚岡神社と地域との関わり」を卒業論文のテーマにしており、実行委員会の合同会議や広報分科会・出店分科会などに積極的に参加・発言している。

総合社会学部・講師の大野司郎さんの協力で、23日の「お笑い神事」・「天の岩戸開き神事」斎行の状況をDVD収録用に撮影予定だ。「東大阪市無形民俗文化財」であることや、枚岡神社の歴史解説などを含めて10分内外のDVDにまとめ、小学校・瓢箪山商店街・テレビ局・新聞社などへの広報活動をするという。

（小川秀人）

左から大野司郎講師、円山洋輔さん、湯川大暉さん

小説

河内奇譚

―2―

番　照男（河内在住の作家）

河童のいたずら

ある温泉に河童が出るという噂が立って1年ほどになる。

河童は露天風呂の岩陰に隠れ、夜中の0時を過ぎた頃、そっと出てくる。この河童、助兵衛のようで、女風呂にしか現れない。

残業で疲れた体を癒そうと、若い女が露天風呂に浸かっていると、岩陰からすーと出てきて、背後から尻をしゃくり上げるように触り、胸を2度ほど揉む。きゃっと声を立てて振り向くが誰もいない。

キッ、キッという河童特有の声がうっすらと聞こえるばかりだ。妖怪学者によると、この声は河童がエクスタシーに達したとき発するのだという。

尻を触られ胸を揉まれた女は1人や2人ではない。両手で数えるのに足らないほどになった。

女風呂にしか現れないので、河童はオスだと噂されるように。また、声にハリがあることから、年寄りではなく、若者だということも分かった。

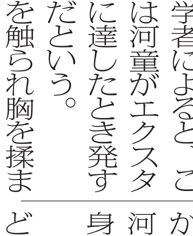
初めは温泉の店主に文句を言っていた女たちも、しばらくして何も言わなくなった。それもそのはず、河童に触られた女は皆、その後すぐに孕むのであった。女たちはことごとく不妊治療を受けており、子宝を望みながら毎日を心細く暮らしていた。ある女などは奈良の名医に5年以上もかかっていた。それが、河童に触られた途端に身籠ったのだ。

女たちは文句を言うどころか、河童を神様のように崇めるようになっている。しかし、河童の姿を目にした者は誰もいない。

噂が広まり、この温泉に何時間もかけてくる女が増えた。河童は恥ずかしがり屋なのか、1人で露天風呂に入っていなければ出てこない。今では、露天風呂に入る順番を争うまでになった。

店主はこれを見逃すはずがなく、露天風呂券なるものを作り、高額の値を付けて販売し始めた。その券がネット上で売り買いされるようになり、最高10倍の値段が付けられるまでになった。

そういえば、ここ数日河童が現れなくなったようだ。人間の深い業を知り、助兵衛心が働かなくなったのだろうか。



音楽の教育が必要

戦前・戦後のラテン音楽とその周辺⑭

ラテン音楽愛好家　緒方　馨

音楽を抑圧した戦争や、社会構造を揺さぶりながら変えていくサイエンスでは民族の「血の流れ」を止めることはできない。

第二次大戦で日本の兵士が飢えと恐怖に襲われながら戦地で歌って心を和らげたのは叙情歌「故郷」だった。チリのフォルクローレの作曲家・歌手ビオレータ・パラの作品「人生よ、ありがとう」は軍政下の弾圧におびえる市民が拷問の続く収容所で皆がこの歌を歌いながら耐え抜いた。そしてこの歌は現在も事あるごとに国民の間で歌われ続けている。「血の流れ」から生まれた歌は人間の心と身体をまもる「食物」である。

これから我が国も様々な困難が待ち受けていることは間違いない。次世代に心の中に末永く感動の情感を留められる音楽の教育は必要である。

昨今の中途半端な音楽教育のように、せっかく育ちかけた感覚の芽を自ら摘み取ることは将来に深い禍根を残すことになる。（完）

文中の敬称は略しました。また、次の資料を参考にしました。

青木誠著「ぼくらのラテン・ミュージック」

東京キューバン・ボーイズ結成60周年記念誌

ペレス・プラード楽団1987年JAPAN TOURパンフレット

VICTOR CD アルバム「懐かしの洋盤アワー」解説本

VICTOR CD アルバム「タンゴ名曲全集」解説本

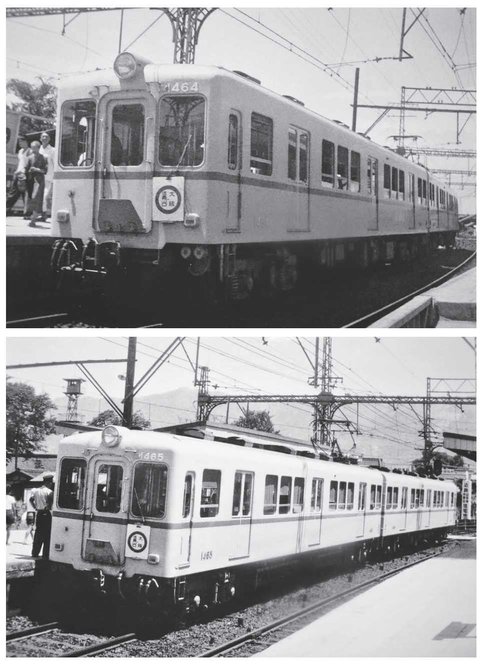
VICTOR CD／TAPE アルバム「想い出のS盤アワー大全集」解説本

SONY MUSIC CD アルバム「Music from Latin America」解説本

なつかしい写真

近鉄電車

〈写真提供〉読者・坂口功氏



２枚とも河内山本駅停車中の電車

（上）大阪ー信貴山口　準急　大阪行き（現・大阪上本町）

（下）大阪ー信貴山口　準急　信貴山口行き

親孝行出版のすすめ

「孝行のしたい時分に親はなし」と言われます。

親が亡くなってから、もっと話を聞いておけばよかったと思う人は少なくありません。まだ親が元気なうちに話を聞き、形に残すことで親孝行ができます。また、子どもである自分の存在の貴さを改めて確かめることができ、いのちのバトンタッチを末代まで残せます。

プロのライターがインタビューし、熟練の編集者が編集し、本格的な印刷のうえ上製本（ハードカバー）に仕上げますので、安心してお任せ下さい。心を込めて、永遠に残るあなたの財産をお作りします。

《基本設定》
A５判 32 ページ上製本（ハードカバー）、布表紙に金（または銀）箔押し
モノクロ写真 10 枚挿入　肉声入りＣＤ付き
制作部数 10 部　出版費用 50 万円（税別）

わが人生　細羽 芹司 著　上製本
＋
わが人生　声 細羽 芹司　肉声入りＣＤ

株式会社ドニエプル出版
〒581-0013 八尾市八尾山本町南 6-2-29
TEL 072-926-5134／FAX 072-921-6893

寄稿

力道山は布施に来た？

猪飼野探訪会会員　中野　善典

戦後最大のヒーローといえばなんといっても力道山であろう。敗戦後敵国であったアメリカのシャープ兄弟等を相手に必殺技空手チョップを使い日本人のアメリカに対するコンプレックスを払拭した力道山。彼は日本人に勇気と希望を与えたまさに日本の英雄であろう。ただ皮肉なことに彼は朝鮮半島の出身であったことは今や誰もが知っている事実である。

力道山のプロレスラーとしての期間はそれ程長くはない。国内試合は昭和29年から昭和38年の約10年間程である。ご存じの通り東京赤坂のナイトクラブ「ニュー・ラテン・クォーター」で刺され数日後に不慮の死を遂げる。海外での試合を含めても彼の試合数は弟子のアントニオ猪木やジャイアント馬場のそれよりもかなり少ないことになる。

大阪での試合は大阪府立体育館やJR天満駅近くにある扇町公園にあった扇町プールがよく利用された。「力道山はなぜ木村政彦と喧嘩試合になったのか」（石田順一著、北國新聞社出版局　2015年）には力道山の判明できた全ての国内試合記録が掲載されており、堺、枚方、岸和田や尼崎などでも試合が行われたようである。つまり大阪府下の「地方」市やその近郊でも興行が催されていた。ところで私は今力道山のある試合のことを追っている。端的に言えば力道山が布施にある三ノ瀬公園で試合をしたことがあるのかどうかということである。

この調査を始めるきっかけとなったのは、阿藤邦氏著「猪飼野の力道山」（「まちかど外伝・大阪ひと物語」所収、倉田健一編、創森出版、1994年）を読んだことから始まった。その中で昭和34年から昭和35年頃三ノ瀬公園で力道山が試合を行ったことが記されている。しかし当時のスーパーヒーロー力道山がまさかあの布施で、あの三ノ瀬公園で試合をしたのか。私はどうしても信じられなかった。日本国中の試合会場を満員にさせられる力道山がわざわざ布施ごときに（と言えば語弊があるか？）来るはずなどありえない。そう私は率直に思った。

もう少し情報を集めてみるべく他の文献を探してみると、今度は別冊宝島120号「プロレスに捧げるバラード」（1990年）の中にある「幻の三ノ瀬マッチ　在日朝鮮人たちの力道山伝説」（黄民基著）にも同様のことが記されていた。つまり力道山が三ノ瀬公園で昭和34年か35年頃試合をしたらしいことが載っていた。

〈母の話はこうだった。「昭和34年か35年やったな。三ノ瀬公園に力道山が来たことがあるんや。町じゅうひっくり返る騒ぎで、みんな見に行った。けど、なんでこんな辺鄙なところに来たんやろ？」〉

さらに私の知り合いの生野区在住（布施は生野区の隣町）の複数の人にきいてみても、確かに力道山が三ノ瀬公園で試合をしに来たと語った。

しかしこれらには共通する点がいくつかある。まずはっきりとした日付が分からないことである。何年何月に力道山が三ノ瀬公園に来たのかが分からない。次に、証言してくれた方々も「力道山は三ノ瀬公園に来た」とは証言するが、実際に試合を観戦した人は誰もいない。今のところ「確かに力道山は三ノ瀬公園で試合をしたが私自身観戦はしていない」というものばかりである。阿藤氏にしても黄氏にしても彼ら自身観戦はしていない。

さらに前述の石田氏の著書「力道山はなぜ木村政彦と喧嘩試合になったのか」の巻末にある判明できた力道山の国内試合記録の中には「東大阪」や「布施」（力道山の時代はまだ東大阪市ではなく布施市であった）の記録はなかった。枚方や岸和田の試合は載っているのに布施の文字は見当たらない。

力道山が三ノ瀬公園で試合をしたのは単なる噂、もしくは都市伝説なのだろうか。

可能な限り当時の新聞記事も調べてみた。すると力道山が設立した日本プロレスリング協会が三ノ瀬公園でプロレスの興行を催したであろう記事を見付けた。昭和39年2月24日付讀賣新聞に「プロレスの〝ただ見〟がアダ　会場わきの空き家　床が抜け六人ケガ」という見出しを見付けた。そこには「…プロレス春季ワールド戦を見ていた…」と確かにプロレスの興行があったことが載ってある。しかし、この昭和39年というのはもうすでに力道山が鬼籍に入っているのでこの時力道山は三ノ瀬公園には来ていないことになる。

ちなみにこの記事は三ノ瀬公園でのプロレスの試合をただで観ようとした人びとが民家の屋根に上ったのだが、「豊登が出たぞ」という声で先を争い屋根から空き家の廊下に飛び降りた際廊下が抜け落ち怪我をしたという内容である。

本当に力道山は三ノ瀬公園に来たのか。私は思い切って「力道山はなぜ木村政彦と喧嘩試合になったのか」の著者で力道山研究の第一人者である石田氏に問い合わせをしてみた。本の出版社を通じて石田氏に連絡をしていただき「本当に力道山は三ノ瀬公園で試合をしたのか」と単刀直入に聞いてみた。

ありがたいことに石田氏から直ぐに手紙をいただいた。「力道山の三ノ瀬公園での試合については、私も気になっていたのですが、力道山の試合記録には不明な部分があり、米軍キャンプで試合を行ったこともあるそうで、現に私の住む金沢でも記録にはない非公式な試合が開催されていました」とあり、三ノ瀬公園での試合に関しては詳しいことは分からないとの返事をいただいた。

さらに石田氏には『幻の非公式試合』と『暗殺説』暴かれた五〇年の真実　力道山と山口組と北朝鮮」（李策取材・文、実話裏歴史、SPECIAL VOL．5、2011年6月11日、ミリオン出版）の資料を同封していただいた。そこには〈「昭和三六年（1961年）、力道山が三ノ瀬公園で公式記録にはない試合をした」との噂があるのだ〉という記述がある。だがこれも確かな日付もなく取材者である李氏も特定できていない内容となっている。

前述した黄民基氏や阿藤邦氏は「昭和34年か昭和35年」説を李策氏は昭和36年説と少し幅がある。これは一体どういうことなのだろうか。豊登時代の日本プロレスリング協会が行った三ノ瀬公園興行を力道山が来たものと勘違いしているのだろうか。

結論から言うと現在のところ答えは出ていない。読んでもらえば分かるが前述の石田氏の著書は微に入り細を穿った調査をされている秀逸な内容である。その石田氏が三ノ瀬公園での試合を見付けられない今、私自身手詰まり状態でいることは当然である。しかし現在当時の新聞（地方版も含め）やプロレス専門雑誌、プロレスとは直接関係がない地方史が載っている文献など根気よく当たっている。またその時の試合観戦者などを地道に探し当たっている段階である。そして地の利を生かしてなんとか答えを出したいと考えている。

そこでその一環として私はこの拙稿を通して読者からの情報提供をお願いしたい。私が知りたいのは、①本当に力道山は三ノ瀬公園で試合をしたのか。②もしそうならその日付はいつなのか。③その時の写真など立証できるものは存在するのか。

この3点が主な内容なのだが、もうひとつできれば知りたいことがある。それは、力道山と猪飼野在住の在日の方々との関係である。というのも私は猪飼野探訪会という団体で猪飼野（現大阪市生野区）に関する様々なことを研究している会員であるからである。

力道山全盛の頃同じく朝鮮半島出身のプロレスラーで柔道家であった大同山又道（高泰文）が開いた猪飼野橋付近にあった道場に力道山が稽古にやって来たことがあるのを目撃した人の証言や、力道山と大同山が食事を共にしたという証言など得ている。また、その当時のスーパーヒーローの力道山が「辺鄙な」三ノ瀬公園にわざわざ試合をしに来たのはその周辺に住んでいた在日同胞のためだったという噂もある。

力道山が相撲時代の興行形態を取り入れ、本場所（プロレスでいう公式戦）ではなく地方巡業（非公式戦）を行っていたと考えれば、ファンサービスという観点から在日同胞のため三ノ瀬公園でエキジビションマッチ（非公式試合）をやっていたとしても不思議ではない。

少し話はそれるが「日本プロレス事件史　ハンディ版Vol．4　球場・ドーム進出」（ベースボールマガジン社、2015年）に次のような記述がある。「まだパンフレット以外のグッズがない時代だったが、入り口で茨城県・韓国人会の人たちが大木金太郎を囲んで有料サイン会を開いていたのを記憶している」。もちろんこの時は昭和46年の出来事であり、力道山時代の日本プロレスでもなく出自を隠さなかった大木金太郎の話である。だがファンサービスという同じ視点に立てば在日のために力道山が三ノ瀬公園で興行を行ったとも考えられる。ただし何度も言うが未だに実際に観戦した人には出会ったことがない。

在日社会という観点からは、焼肉の食道園の創業者江崎光雄（林光植）氏と力道山との親密な関係は創業者の妻光子氏の著書「長い旅」に詳しいが、巷間伝えるところでは出自を隠したとされる力道山はプライベートの部分ではどうだったのか。

力道山が金日成にロールロイスを送ったり、東京五輪の時に寄付をしたりしたことは知ってはいる。一方日本プロレスに入門した韓国出身の大木金太郎には朝鮮語で話したことは一度もなかったらしい。もし私生活の面で在日同胞との交流が頻繁にあったのなら、大阪での興行のときなどでは猪飼野の在日の方々との交流があったと考えてよいだろう。阿藤氏もわざわざ「猪飼野の力道山」という題名をつけているのであるからなおさらである。だが、私はほとんど力道山と猪飼野の関係性を耳にしない。

どなたか力道山との交流をされた方がおられるのならぜひ連絡をいただきたい。プライベートの部分で彼は出自をことさらに隠していたのか、そうでないのか諸説あるからだ。

在日社会とは関係がないが今里の料亭「本郷」には力道山が訪問したときの写真が飾ってある。生野区にある料亭に食事をしに来たことと在日社会との関係とは必ずしも関連性はないが、度々大阪で試合をしに来た力道山が猪飼野を無視したとはどうしても思えない。だが彼の猪飼野での噂話はほとんど聞かない。力道山と猪飼野との関係に関する情報をお持ちの方はぜひ東大阪新聞社（☎072―926―5134）へ連絡していただきたい。

田中誠太八尾市長の還暦を祝い一献傾ける

12月4日　ホテルニューオータニ大阪で

田中誠太八尾市長が12月4日に還暦を迎えた。この日、日ごろ親しくしている約160人がホテルニューオータニ大阪（大阪市中央区城見1）に集い「田中誠太の還暦を肴に一献傾ける会」が開かれた。

発起人代表は古橋健士さん。発起人は池田貴彦さん、玉田浩さん、江岡茂行さん、山本裕三さん、松村圭造さんの5人。

会が始まると、田中市長は舞台に上がり、赤いちゃんちゃんこを着せられた。花束を受け取り、奥さんの紀子さんとともに感謝の言葉を述べた。

会の途中には弦楽器三重奏や道越裕海さんの歌などが盛り込まれ、参加者を楽しませた。

赤いちゃんちゃんこを着てお礼を述べる田中誠太八尾市長（左）と紀子夫人

キムタツの知恵袋⑩

会社でお金を積み立てするなら銀行と保険どっちがお得?

○毎年100万円を会社で５年間、積み立ててた場合

●銀行で積み立てをした場合

税制の優遇を受けれないため、積み立て金額は法人税の対象となります。

法人税率を35% とした場合

100万円の積み立てをする場合、法人税を加味すると、154万円の原資が必要です。

※0.01% ／年と低金利な状況

●保険で積み立てをした場合

税制の優遇を受けれるため、積み立て金額の①半分または②全額を経費にできます。

もちろん、万一の際には保険金として大きなお金に変わります。

法人税率を35% とした場合

①100万円の積み立てをする場合、法人税を加味すると、127万円の原資で可能です。

※戻ってくる割合は90 ～ 100%（積み立て時の年齢によって変わります）

②100万円の積み立てをする場合、法人税を加味しても、100万円の原資で可能です。

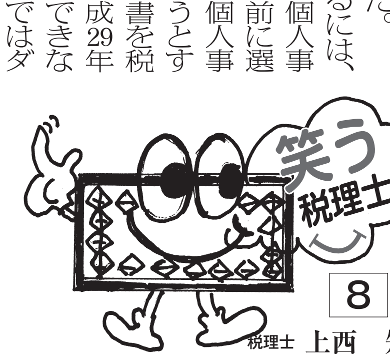
※戻ってくる割合は70 ～ 90%（積み立て時の年齢によって変わります）

①は、5年の積み立て期間を終了後、解約せずに放置した場合、

金利、およそ1.8 ～ 2.0% ／年で積み立てたお金が増えていきます。

さあ、銀行と保険、積み立てするなら、どっちがお得 !?

株式会社アイシード　トータルタックスプランニング
〒541-0057　大阪市中央区北久宝寺町３- ５-12　御堂筋本町アーバンビル９Ｆ
ＴＥＬ 06-6252-7737　ＦＡＸ 06-6252-7738
Ｅ-mail：tatsuya_kimura@iseed.co.jp
携帯 080-3135-6252



８

税理士　上西　知

消費税の簡易課税は簡単ではない②

事業者が納める消費税の計算方法は、売上に含まれている消費税を預かった消費税として、その金額から経費に含まれている消費税分を引いた残りを国に納めるとなっている。つまりは損も得もない。しかし事務作業がたいへんなので、簡単に消費税を計算できる方法が簡易課税制度だ。

簡易課税を選択するには、その会社の決算期間（個人事業なら暦年）が始まる前に選ぶようになっている。個人事業者が簡易課税を選ぼうとすると平成28年中に届出書を税務署に提出しても、平成29年分からしか簡易課税にできないのだ。なぜ、後だしではダメなのだろう。実は前もって選択する制度になっているため、様々な問題が起こる。どちらが得かを予想する必要があること。届け出は出し忘れるだけで命取りになるということ。

事業者が金属加工する工場で簡易課税を選択していた、として書いてみよう。加工業者は売上に対して消費税のかかる経費が60%。この割合は業種によって変わるが、加工の場合は60%なのだ。消費税は売上が2、000万円とするなら、預かる消費税は8%だから160万円。その60%が消費税を含んでいる経費となると1、200万円の経費、消費税は8%だから96万円含まれている。いくら納税するかというと160万円から96万円を引いた残りの64万円の納税である。

1つ目の問題は、実際に消費税を含んでいる経費が1、200万円より少なければ、納税が少なくなったことになる。例えば1、000万円だったとしたら消費税は16万円も得をすることになる。これが消費税の簡易課税制度を使った節税方法だが、果たして毎年そんなにうまくできるものだろうか。

（つづく）

詩の窓

わたしたちは日本で産まれた

丁　章（東大阪市在住の詩人）

日本で産まれたわたしたち
あれこれ教わって
いろいろ知ってしまって
だからもう日本を
故郷だとは
おもいにくい。
でもだからといって
海の向こうに
あるわけのない
故郷。

おとうさんやおじいさんやひいじいさんが
属していた国は　祖国だろうし
おかあさんやおばあさんやひいばあさんが
口にしていた言葉は　自民族語だろうけれど
わたしたちのものだとはもう
おもいにくい
その国家と言語。

それでもわたしたちには
母親たちと父親たちの
太古からずっとつづいてきている
ありとあらゆる営みからは
切れてしまうことができない
のだからこそ
大切にもおもえるのだし
尻ぬぐいだって
しようとおもえる
わたしたちのルーツ。

なのにわたしたちには
与えられない
居場所。

或る者は帰属し
或る者は旅立ち
或る者は海を越え
或る者は山にこもり
うたをうたう。

きこえているか。
日本語でうたうことの
せつなさをうたう
うた。

日本で産まれたわたしたちは
帰りようのない
この日本で
帰りようのない
日本語によって
祖国と言語に
つながりながら
わたしたちの
居場所と言葉を
もとめている。

まったく新しい
わたしたちの
居場所と言葉を。

BOOK

「大坂城と大坂の陣―その史実・伝承」

大阪城天守閣館長 **北川　央** 著

慶長20年（1615）5月7日、大坂夏の陣最後の決戦で真田幸村は討死を遂げ、大坂城は落城する。しかし、首実検に出てきた幸村の首は3つ。鹿児島市には豊臣秀頼の墓があり、鹿児島県南九州市に真田幸村の墓がある。大坂夏の陣から34年を経た慶安2年（1649）2月には彦根で大野治房の嫡男が捕えられた。治房の生存が確認され、人相書が出回る。翌月には後藤又兵衛の嫡男が泉州淡輪で捕えられた。大河ドラマだけではわからない大坂の陣。

史実と伝承から、大坂城と大坂の陣の実相に迫る。産経新聞大阪版に平成23年から5年間連載した「大阪城　不思議の城」53編に7編を加えた。各項目に内容に合った絵地図があり、歩いてみたくなる。

B6判242頁、定価1、620(税込み)。新風書房（☎06―6768―4600）刊。

絵地図入りで歩いてみたくなる

パイプイス人引車 26,500 円（税別）

災害時対応の「人引車（じんびきしゃ）」

大好評につき受注後約20日で納品します

日常は室内で使用、
緊急時は避難用に使用

室内外兼用人引車 77,500 円（税別）

一般社団法人災害避難研究所
マツモラ産業株式会社　共同開発

監　修　（一社）災害避難研究所
企画開発　大興産業株式会社
製　造　マツモラ産業株式会社
ＴＥＬ　072-925-3450

HIGASHIOSAKA

大阪の元気！ものづくり企業

八尾・柏原版

八尾柏原支社
八尾市山本町南６－２－29
TEL 072－926－5134
FAX 072－921－6893

仲睦まじい垣内さん夫妻

ペントモール八尾５番街に 洒落たダイニングカフェ誕生

CAFE.OTOMO

垣内広人さん、智香さん夫妻

年明けからライブも予定

西武八尾店前のペントモール八尾５番街に洒落たダイニングカフェが誕生した。屋号はCAFE.OTOMO。地域のお共に、あなたのお友に、ご飯のお供に、酒のお供に、音も大切にという思いが込められている。

垣内広人さん（53）、智香さん（55）夫妻が11月1日に立ち上げた。子ども2人が社会人となり、長年の夢を叶えるべく奮起。広人さんはフードサービスの会社に勤めていたので、店舗づくりや仕入れなど頭に入っていた。智香さんは栄養士と調理師の資格を持つ。2人で力を合わせれば、いい店ができると考えスタート。

メニューは和洋とりどり。昼はランチ、夜はビアダイニング。昼から夜までスイーツも。

広人さんは若い頃ドラマーをしていたので、店でライブができればと考え、音響設備や電子ピアノをセットした。年明けからさまざまなジャンルのライブを開く予定だ。

CAFE.OTOMO
八尾市光町３―20―180
ペントモール八尾５番街
☎072―924―0015
ランチ　11時～14時
スイーツ　14時～23時
ビアダイニング　17時～23時
定休日：火曜日

認定証
明日の有名
に認定します
株式会社 東大阪新聞社

子ども食堂

龍華コミュニティセンター

11月30日、日の暮れと共に龍華コミュニティセンターの調理実習室は子どもたちの明るい笑い声に包まれた。夢うららほっとステーションが主催する「子ども食堂」だ。子ども食堂とは、地域に住む子どもたちに食事や学習の場を提供する取り組みである。

今年の6月に第1回が催され、月に2回のペースで継続して開かれている。食事を提供するだけでなく、毎回趣向を凝らせ、二胡の演奏や科学マジックショーなど目玉となるイベントを交えながら子どもたちを楽しませている。

今回で12回目。八尾市で35年続く豆腐屋の老舗、河内庵の店主三好岩雄さん（66）が手作り豆腐を持参し、子どもたちに振る舞った。皆、できたての木綿豆腐を美味しそうに平らげた。

新しい試みとしてフードプロセッサーを使い、ペースト状にした豆腐を配る三好さん。それに黒蜜やシロップをかけて豆腐をデザートのようにして食べる初めての体験に子どもたちは目を輝かせた。

「どんな味付けを試すかは子どもたちの想像力次第です。彼らの中で新発見があれば私としても嬉しいです」

と話す三好さん。

子どもへ向けて何かできることはないか、常々考えているという。

「河内で長年商売を続け、地域の人に店を育ててもらいました。ささやかながらこれが私なりの街への恩返しです」

三好さんはその他、自身の持つ店舗兼大豆ギャラリー（八尾市八尾木北5―119）にて地域の小学校と提携し、小学3年生に向けた社会科見学を行なっている。そこでは大豆から豆腐になる過程を見学し、実際にできたばかりの豆乳を飲むこともできるそうだ。

今回のイベントへの参加は、数カ月前に子ども食堂の話を聞きつけて河内庵の豆腐を提供したことがきっかけだ。

夢うららほっとステーションを主宰する浦上弘明さん（63）は話す。

「すべて人と人の繋がりから広がっています。河内庵の三好さんも、子どもたち、ボランティアのスタッフの皆さんもそうです」

子ども食堂を開催した当初、子どもは10人ほどしか集まらなかった。それでも嬉しかったと浦上さんは言う。

「はじめてのことですから私もスタッフも分からないことばかりでした。そのうち噂が噂を呼び、今では40人を超える子どもたちが集まるようになりました」

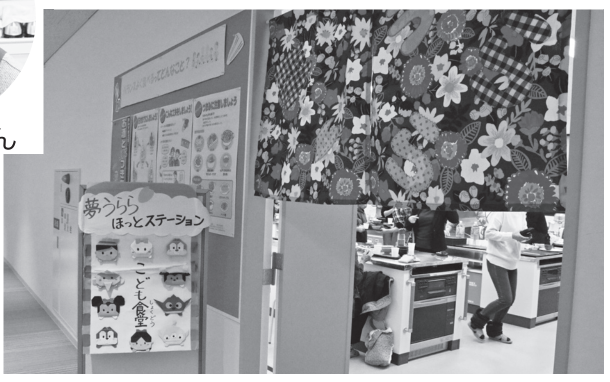
回を重ねるごとに子どもの数もボランティアの数も増えていった。口コミに加え、フェイスブックなどのSNSによって情報の配信範囲が広がった。そこから実際に問い合わせの数が増え、話を聞きつけた地域の飲食店がお米やパン、ケーキなどを提供してくれるようになった。

和やかな雰囲気の子ども食堂

三好岩雄さん

地域の子どもたちに

浦上弘明さん



夢うららほっとステーションの入口

食事や学習の場を提供

「生きた繋がりですよ。地域の大人と子どもの触れ合いが絆を生みます。ボランティアだって自発的に参加するメンバーだけですよ。自分には何ができるか。料理を手伝う者、勉強を教える者、工作をする者、自分ができることを出し合うことで相乗効果が生まれるのです。

1つの組織を作る時、司令塔の指示にだけ従うような組織は成り立ちません。1つのテーマから自発的に行動を起こすのが私たちの方法です」

夢うららほっとステーションを立ち上げる以前、浦上さんは地域の中学校で校長を歴任し、その後八尾市教育長を務め上げた。現場での仕事を経験する中で、教師という立場から子どもの教育に向かい合うことへの限界を感じるようになる。

「担任をしていて生徒に言いたくても言えなかったことはたくさんありました。芯から伝えることができれば、生徒をよりよい道へ背中を押してやれただろうにと思うことも」

そこにはプライバシーや教育と福祉の役割の違いの壁が大きく立ちふさがる。

様々な葛藤の中、浦上さんの頭の中に子ども食堂の構想ができあがっていった。

八尾市教育長を退任した後、浦上さんはあたためていた構想を現実へと移し始めた。

「子どもが成長するための土台作りをしていると思っています。これが私に残された使命です」

浦上さんはそう微笑んだ。

今後の課題は、資金面だと浦上さんは話す。市の助成金もなく、寄付金のみで運営しているのが現状だ。このまま子どもの数が増えれば運営を管理することが難しくなる。その前に何かしらの対策を打たねばならない。

真剣な面持ちで話すなかにも、子どもたちに「ウラちゃん！」と呼ばれ、にこやかに振り返るあたたかい教育者の姿がそこにはあった。

（嶋津亮太）

12月21日 クリスマスパーティー開催

次回の子ども食堂は12月21日「夢うららクリスマスパーティー」が、龍華コミュニティセンターで開かれる。

夢うららほっとステーション

龍華、永畑、亀井、安中の４小学校区に住む小学４年～中学３年生が対象。

初めて利用する際は原則、保護者の同伴を求める。保護者が食事する場合は300円が必要。

八尾市立龍華コミュニティセンター内
八尾市南太子堂２―１―45
☎072-922-2718

食の安全を厳しくチェック

八尾市内のスーパーで 食品衛生パトロール

年末年始の商品がたくさん出回る時期に、食料品の衛生管理や、賞味期限・原産地の表示などをチェックしようと、12月5日、主婦らで組織する八尾市消費問題研究会（角田禮子会長）が、八尾市内のスーパーなどで食品衛生パトロールを行った。

食品衛生パトロールは毎年、この歳末期と食中毒が発生しやすい梅雨時の年2回実施されているもの。調査は、八尾保健所などの協力のもと、同研究会会員25人が4班に分かれ、近鉄八尾駅周辺のスーパーなど（イオン、はやし、パントリー、イトーヨーカドー）の食料品売り場で行われた。

スーパーで商品をチェックする会員

調査項目は16項目。乳製品や冷凍食品、農産物など、冷蔵・冷凍ショーケースの温度計設置の有無、適正温度の管理、賞味期限・原産地の表示の有無、エコマーク商品など環境に優しい商品が売られているか、通路の通りやすさなど。会員らは、チェックシートに記入しながら入念に点検を行っていた。

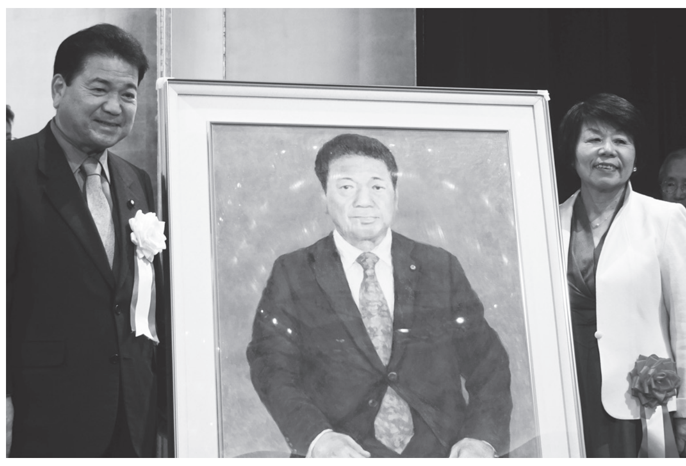
会員の1人は、「消費者が安心して買い物できるよう、品質や価格などが適切に販売されているか、消費者の目線でしっかりと確認していきたい」と話していた。

会員らは、1週間にわたって八尾市内のスーパーで同様のチェックを行った。

調査結果は、八尾保健所職員が当該店舗に助言などを行う場合の基礎資料として活用されるほか、来年2月頃に開催される事業者・消費者・行政らの懇談会で報告され、改善方法などについて話し合われる。

衆議院議員谷畑孝を囲む会で

肖像画を披露



肖像画とともに記念撮影する大槻洋子さん（左）と谷畑孝議員

鈴木英夫さん

衆議院議員谷畑孝を囲む会（経営セミナー）が11月28日にシェラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区上本町6）で開かれ、支援者のなかでも特に経営者約350人が集った。

第1部として、浪速の間東で講演会が開かれた。講師は新日鉄住金株式会社常務執行役員の鈴木英夫さん。米国大統領選でトランプ氏が勝利した背景など具体例を挙げながら世界の動きを説明した後、日本の企業が進むべき道を示した。

第2部の懇親会は浪速の間西で開かれた。松井一郎大阪府知事らが駆け付け、祝辞を述べた。

議員生活25周年を記念

また、議員生活25周年を記念し描かれた谷畑議員の肖像画が初めて披露された。高安悠画会を主宰する画家、大槻洋子さん（69）によって描かれたもので、谷畑議員の特徴を上手く捉えている。この肖像画は国会に永久保存される。

写真、絵画、ミックスメディア 鮮やかに展示

第３回山田画廊企画展開催

第3回山田画廊企画展が11月23日～12月4日に山田画廊（八尾市山本町南3―2―20）で開かれた。36人の作家が63点の作品を出品。写真、絵画、ミックスメディアが鮮やかに展示された。田中誠太八尾市長が撮影した写真も。

今年4月にオープンした山田画廊では、来年から年に5回の企画展を考えている。主宰で写真家の山田哲生さん（67）は「日本中から作品が集まる画廊に育てたい」と抱負を語っていた。企画展だけでなく、会場貸しも行っている。

山田さんは画廊以外にも、来年1月23日～29日に八尾市観光案内所ギャラリー（八尾市北本町2）で「写楽のつどい」写真展を企画している。「写楽のつどい」は、撮影を通じて心と身体の健康を増進し撮影技術の向上に努めることを目的とした会。誰でも気軽に参加できる。

問い合わせは山田哲生さん（☎090―2191―1272）へ。

作品に囲まれる山田哲生さん

連載小説

ウクライナを歩く――(69)

小野元裕

子殺しまで行われるノヴォロシア

バルト海
リトアニア
ベラルーシ
ロシア連邦
ポーランド
ウクライナ
スロバキア
ハンガリー
モルドバ
ルーマニア
黒海
ブルガリア

固まった空気を和らげようとして、ビクトルさんは小声で言った。

「巷では『1人のフィロならまだしも、2人のフィロが生まれると、世界は破滅する』と言われていますよ」

マリアちゃんが顔を赤らめ俯いた。フィロとは男性の性器を表す言葉で、馬鹿にするときに使う。ウクライナでは、プーチンをフィロと呼ぶ。プーチンと手を結ぼうとする米国次期大統領トランプのこともフィロ扱いだ。

タラス教授は語気を強めて言う。

「ロシアと米国が手を結んで世界を滅亡に導いたとしても、ウクライナは最後まで戦い、生き残ります」

マリアちゃんは身を乗り出してその言葉を受け止める。

タラス教授は続ける。

「ロシアはすでに内部崩壊が始まっています。ロシアは外敵には強いのですが、内部は脆いのです」

ビクトルさんは何かを思い出しように目を閉じて言った。

「ノヴォロシアと勝手に名乗るドネツクでは、子殺しまで行われています」

マリアちゃんは目をパチクリさせる。

「子どものいない夫婦が15歳の男の子を養子として孤児院から引き取りました。25歳になった今年、寝込みを襲って刺し殺したのです」

マリアちゃんは「どういうことなのですか」と目を赤くして聞いた。

「真実に目覚めた里子が『ウクライナが正しい』と主張し始めたのです」

マリアちゃんは言葉を失った。

タラス教授は呟くように言葉を漏らした。

「そんな理由で…」

八尾シティーコンサート Part88
石川綾子 ヴァイオリン・リサイタル
2017（平成29）年3月24日（金）
19：00開演（18：30開場）
八尾市文化会館プリズムホール
★チケット料金★
一般　3,000円（当日300円増）
フレッシュシート＋　1,500円＜大学生以上25歳以下＞
フレッシュシート　1,000円＜小・中・高校生＞

テレビ朝日「関ジャニの仕分け∞」「題名のない音楽会」など、メディア出演多数の全豪No.1ヴァイオリニスト、石川綾子。
ヴィヴァルディ からボカロ、おそ松さんまで、ジャンルの壁を超えたバラエティ豊かなプログラムに楽しんでいただけること間違いなし！　繰り広げられる超絶技巧は、ヴァイオリンの常識をくつがえすほど。石川綾子が魅せる、「こんなヴァイオリンは初めて！」をお楽しみください。
★プログラム★
モンティ：チャルダッシュ
ピアソラ：リベル・タンゴ
久石譲　：君をのせて（「天空の城ラピュタ」より）
黒うさP：千本桜
96　：はなまるぴっぴはよいこだけ（「おそ松さん」より）ほか
※プログラムは変更する場合がございます。予めご了承ください。

PRISM HALL
八尾市文化会館
チケットのお求め お問い合わせ
プリズムホールチケットカウンター ☎072-924-9999
プリズムホールウェブサイトチケット　http://prismhall.jp/

元気になれ！
ヘム鉄ゼリー

１粒にほうれん草30株分、プルーン300粒分の鉄分補給！

黒粒ヘム鉄ゼリーは、ヘム鉄と、瞳に優しいアントシアニン色素、ビフィズス菌の栄養になる（善玉菌を増殖させる）オリゴ糖、そして、スギナ・ヨモギなどをバランスよく含有したゼリーです。

430ｇ（50粒）
￥4,104（税込）

（有）ライヴグリーン
TEL 072-923-5517

楽しい仕事が見つかります！
障がい者専用求人
未経験大歓迎！
月給モデル 90,527円
（4.5時間／日、1ヶ月23日で皆勤手当含）
①裁　断
生地の地の目を整える作業により、製品化後の変化や縮み等を最小限に抑えます。
1着1着、サイズ・デザイン・動き等を考慮し裁断します。
②縫　製
一切、直線や平面のない人体に平面の記事を添わせるには、アイロンワークと立体を生み出す縫製が重要です。この技術こそが長年の修練の賜物であり、我々が継承したいものなのです。
③仕上げ
この時点までは、出来上がった服は言うなれば化粧前。
最後の仕上げプレスによって服は命を吹き込まれ、人に寄り添うパートナーとなります。

近畿自動車道
久宝寺緑地プール
久宝寺緑地陸上競技場
至加美
許麻神社
テイラーズ・ギルド
八尾久宝寺四郵便局
179
至八尾

NPO法人 テイラーズ・ギルド
電話　072-943-1647（担当／森川）
八尾市久宝寺 4-4-30

第５回世界に羽ばたけ
『夢』スピーチコンテスト
支援金額：120万円
【本選開催日時】平成29年10月（日にち未定）
14時～17時
本選開催場所：大阪商業大学ユニバーシティホール蒼天
住所：大阪府東大阪市御厨栄町 4-1-10
主催：一般財団法人青少年夢応援隊
協賛：株式会社サンクレスト
後援：大阪府、東大阪市
公式サイト：http://yumeouentai.com

【開催趣旨】
将来の夢や目標があるが、経済的支援を必要とする若者が自身の「夢」をテーマにスピーチを行い、受賞者を選定、支援金権利を授与いたします。
【応募資格】
大阪在住または在学・在勤の16歳以上25歳までの青少年（1992年4月2日～2002年4月1日生まれの方）

【出場者一次選定】
作文を基にスピーチコンテスト本選出場者10名を選考いたします。
①公式サイトより『出場申込書』をダウンロードし、必要事項を記入
②「夢」というテーマで作文を書いていただきます。
また、受賞した際の支援金の使途も記載ください。
※原稿用紙（400字詰め）にて３枚まで
※手書き、パソコン等問わない
③応募方法：「出場申込書」と「原稿」を併せてメール又は郵便でお送りください。
※「出場申込書」と「原稿」はＨＰよりダウンロードしてください。
※メールを送る際の件名は「スピーチコンテスト応募」としてください。
④送り先：郵送の場合　宛先：大阪府東大阪市南上小阪 12-42
一般財団法人青少年夢応援隊　スピーチコンテスト企画係宛
メールの場合　info@yumeouentai.com
問い合わせ☎06-6725-0511
⑤原稿締切：平成29年8月31日（木）必着

東大阪の企業　株式会社サンクレストが応援しています